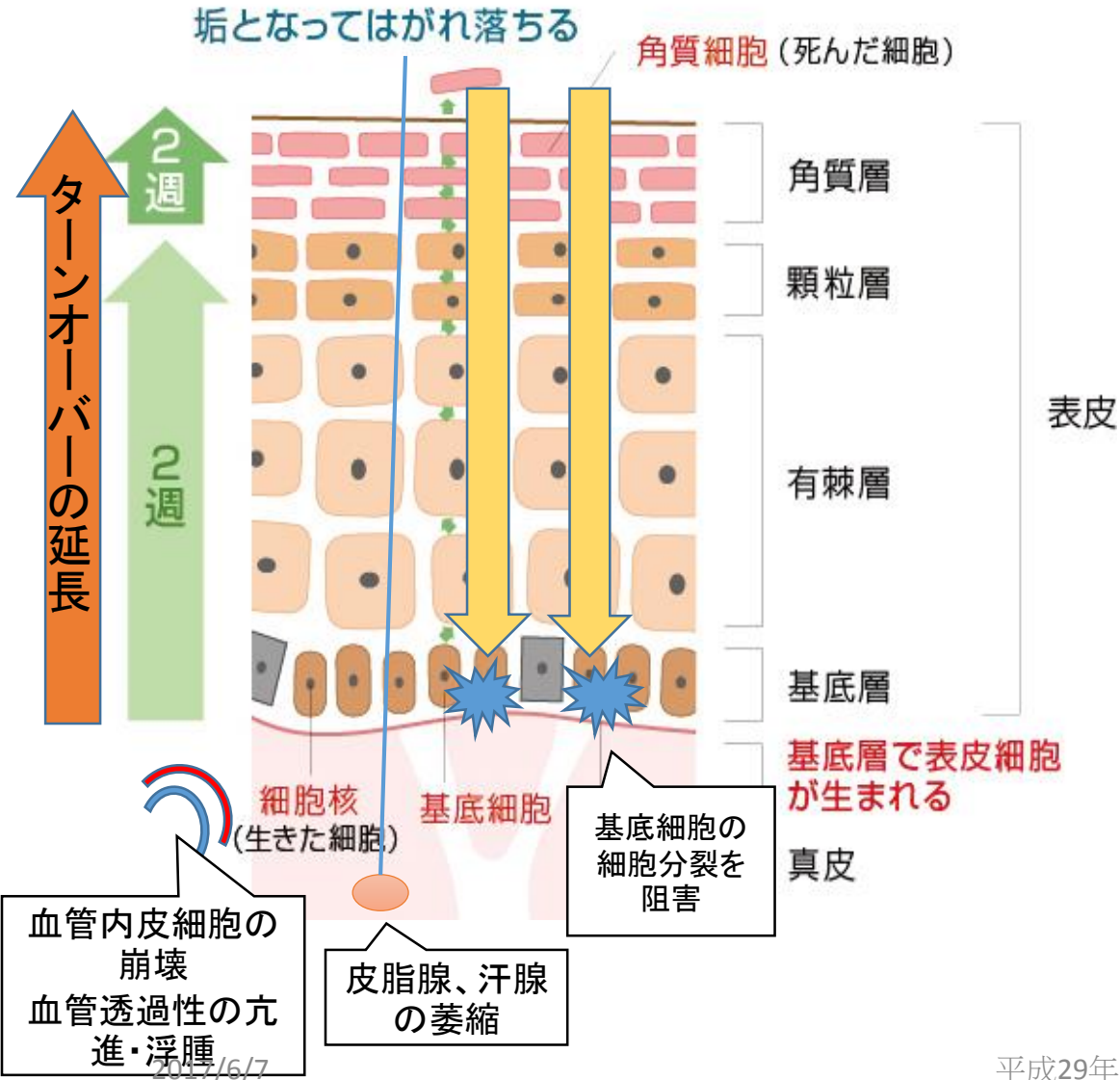


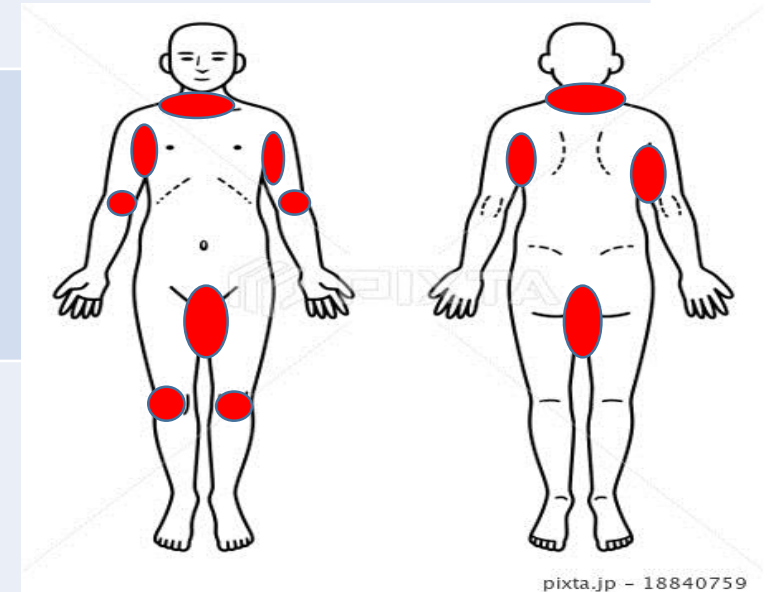
放射線療法が皮膚に及ぼす影響



- ① 基底細胞の分裂能が低下し、上皮細胞や角質層が減少する。
- ② 汗腺・皮脂腺が萎縮し、汗・皮脂の減少からバリア機能が低下する。
- ③ 血管内皮細胞の崩壊、血管透過性の亢進による浮腫・炎症がおこる。
- ④ 基底細胞が障害され続けると修復過程が停止して皮膚が菲薄化、防御機能が低下する。

皮膚に影響を及ぼすリスク要因

要因	主な因子
対象の要因	年齢、疾患、全身状態、栄養状態、薬剤の使用、喫煙習慣、皮膚の状態、こすれやすい、しわが生じやすい、可動性の高い部位(頸部・腋窩・乳房下・肘窩・会陰部・大腿内側・膝窩など) 骨突出部、顔面、手術瘢痕創
物理的要因	粘着性の皮膚保護剤・ドレッシング材の貼付(ストーマ装具・湿布・粘着テープなど) 金属類を含む軟膏(亜鉛華軟膏、ゲーベン®クリームなど)
照射方法との関連	照射回数 入射角度照射野皮膚の形状 照射エネルギー量 照射門数
他の治療との併用	薬剤の種類 投与期間、投与量 有害事象の治療に使用する薬剤 (副腎皮質ステロイド剤、利尿剤など)



pixta.jp - 18840759